

階上町社会教育複合施設整備 基本構想・基本計画

概要版



階上町

HASHIKAMI TOWN

令和7年3月

はじめに

町では、図書館と資料館、そして活動・交流スペースを有し、生涯学習推進を担う「複合施設」の整備に向けて、このたび「階上町社会教育複合施設整備基本構想・基本計画」を取りまとめました。

構想・計画の作成にあたっては、町民と有識者で構成する階上町社会教育複合施設整備検討委員会からのご意見伺うとともに、町民ワークショップによる意見の集約、パブリックコメントを行い検討を進めました。

第1章 基本構想

目的と背景

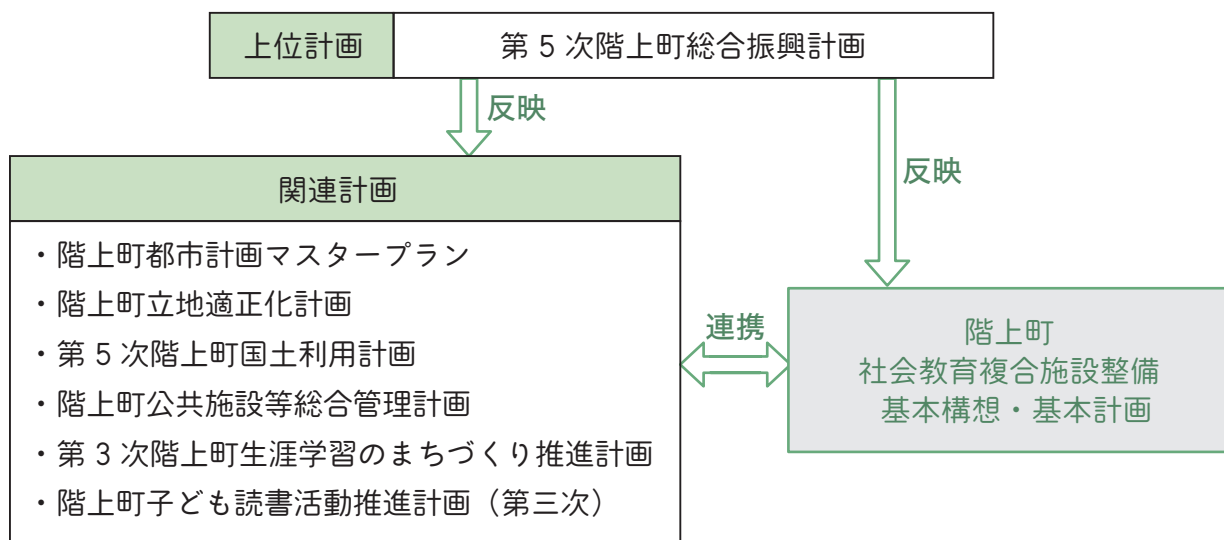
策定の目的と背景

本町の公共施設の多くは老朽化が進んでおり、公共施設の総合管理計画を策定し、ニーズに合った適正管理に取り組んでいます。一方、町では生涯学習の重要度の高まりから、“生涯学習のまちづくり”を推進してきました。このような背景から、町の生涯学習を担う新たな施設として、図書館機能、資料館機能、交流機能を併せ持つ「社会教育複合施設」を整備します。

基本構想・基本計画は、複合施設整備の基本方針や施設が備える機能などを具体的に示し、設計を行う際の基本方針を示すために策定するものです。

上位計画及び関連計画での位置付け

町の各種計画における複合施設整備の位置付けを確認し、整合性を図りながら、構想・計画を策定しました。



前提条件の整理

階上町の人口構造

本町の人口は、12,624 人（令和 6 年 4 月 1 日現在）で、今後も人口減少が続くものと予測され、社会教育施設のあり方にも少なからず影響を及ぼすと考えられます。

階上町の社会教育関連施設の現況

本町には、5 つの社会教育関連施設があり、資料館機能を持つ施設が 2 施設、図書館機能を持つ施設が 3 施設設置されています。

(1) 民俗資料収集館

資料館
機能

昭和 42 年（1967 年）設置、築 57 年（2024 年現在）。中央公民館のハートフルプラザ・はしかみへの移設後、赤保内地区公民館として 2 年活用され、その後用途変更して現在に至ります。



(2) 金山沢水郷館

資料館
機能

平成 5 年（1993 年）設置、築 31 年（2024 年現在）。平成 26 年度に旧金山沢小学校を改修し、2 階部分を収蔵庫として活用しています。1 階の集会所機能部分と体育館は、金山沢行政区が指定管理しています。



(3) 道仏公民館

図書館
機能

昭和 47 年（1972 年）設置、築 52 年（2024 年現在）。2 階に図書室があり、道仏交流センターと併設しています。平成 24 年度に耐震補強工事を、令和 4 年度に床張替工事を実施し、長寿命化が図られました。



(4) 石鉢ふれあい交流館

図書館
機能

平成 15 年（2003 年）設置、築 21 年（2024 年現在）。1 階に図書室があります。町民プールと併設されており、施設内にトレーニングルームがあります。



(5) ハートフルプラザ・はしかみ

図書館
機能

昭和 59 年（1984 年）設置、築 40 年（2024 年現在）。2 階に図書室があります。施設所管は、介護福祉課が行い、階上町社会福祉協議会が指定管理しています。



社会教育関連施設の課題

- 課題① 社会教育施設の場所及び機能が分散しています。
- 課題② 民俗資料収集館と金山沢水郷館の立地条件が悪く、文化財の有効活用ができていません。
- 課題③ 道仏公民館、民俗資料収集館は築 50 年以上であり、建物の老朽化が進んでいます。
- 課題④ 図書室間の相互貸借に時間がかかるなど、図書館の機能と連携が不足しています。
- 課題⑤ 適切な温湿度管理ができていないなど、資料の適切な保存環境を備えていません。

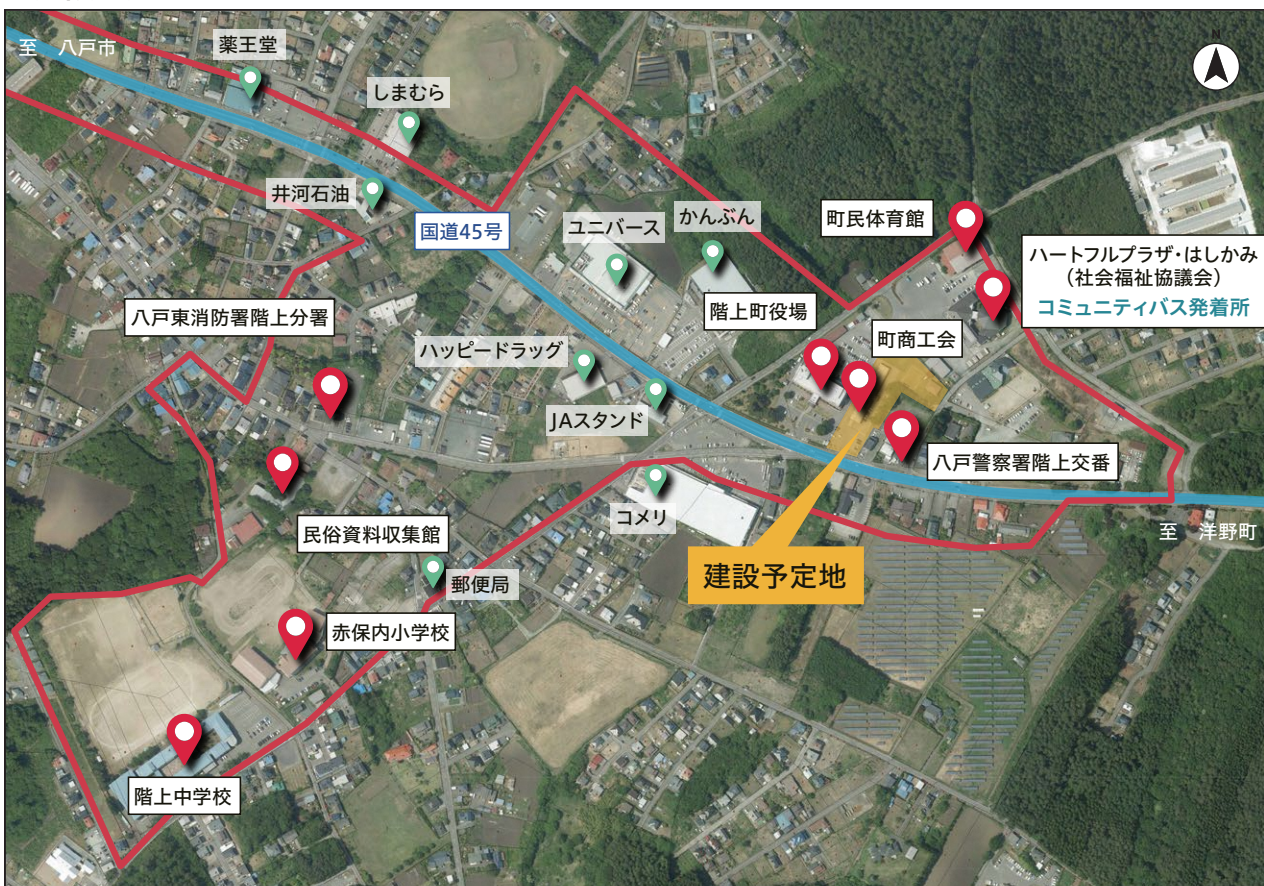
敷地条件

建設予定地

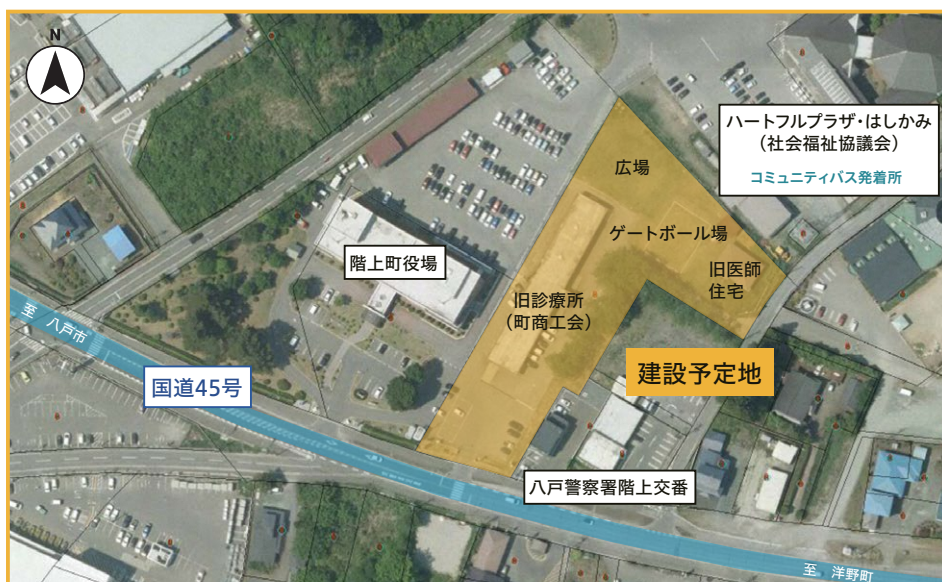
複合施設の整備は、財政負担の軽減を図るため、国庫補助もしくは起債対象となるように都市構造再編集中支援事業として整備します。建設予定地は、耳ヶ吠地区の都市機能誘導区域内とし、「役場庁舎敷地内」とします。

■建設予定地の立地

都市機能誘導区域



■建設予定地周辺



第2章 基本計画

施設計画

新たな社会教育複合施設は、施設の基本コンセプトを実現するため、「**図書館機能**」「**資料館機能**」「**活動・交流機能**」の3つの機能を基本として整備します。

施設に求める機能

3つの機能について、整備の考え方及び整備予定の諸室と機能は次のとおりです。

図書館機能	【整備予定の諸室と主な機能】	
利用者の様々な目的に対応するとともに、読書意欲を醸成する場。多世代を対象とした蔵書やデジタルコンテンツを活用し、滞在型の図書館としての環境を整備。	一般閲覧室	主題別書架。個人・グループ利用に配慮など。
	児童図書コーナー	絵本や児童図書用の書架など。
	読み聞かせコーナー	子供たちへの本の読み聞かせコーナー。
	地域資料・郷土誌	階上町の歴史紹介書、地域資料などを紹介。
	新聞・雑誌	新聞、雑誌の閲覧スペース。
	サービスカウンター	効率的なレファレンスサービスを提供。
	書庫	本の長期間保存のために遮光・換気などに配慮。
	事務室	施設全体を把握可能な配置。
資料館機能	【整備予定の諸室と主な機能】	
町の文化財を守り、継承・発信していくガイダンス機能により、歴史文化に対する関心を高める場。文化財の保存と公開に適した環境を整備。	常設展示室	県重宝等所蔵文化財の特性に応じた設備など。
	企画展示室	展示更新が容易な設備の導入。
	展示準備室、前室	展示室の空気環境保持のための準備室。
	資料収蔵室	地震による資料の転倒防止策などを考慮。
	荷解室・搬出入口	ひさしの設置など文化財への影響の少ない出入口。
活動・交流機能	【整備予定の諸室と主な機能】	
町民が集い活動・交流するとともに観光客と町民の交流を生む場。子育て世代への活動支援のための環境を整備。	活動フリースペース	学習、打合せなど気軽に利用可能な小スペース。
	交流オープンスペース	飲食や会話が可能な町民交流スペース。
	会議室	会議、講習利用のほか、学習スペースとして活用。
	エントランスホール	休憩のほか、絵画等の展示ギャラリーとして利用。
	キッズスペース	小さい子供や赤ちゃんが安全に過ごせる場を整備。
	ベビールーム	乳児連れの方の利用を想定した設備。
	観光交流スペース	町の観光情報を紹介するスペース。
その他、外構機能	【主な機能】	
駐輪場と駐車場を整備するとともに、多世代交流を目的とした多目的広場を整備。	駐車場	25台分のスペースを確保。
	駐輪場	20台分のスペースを確保。
	多目的広場	イベント時の活用など多世代交流の場として整備。

施設規模について

施設規模は、核となる図書館と資料館及び活動・交流スペース、そして建設予定地の敷地面積を考慮し、約 2,000 m² を目標値として設定します。

施設規模の目標値			
図書館機能	資料館機能	活動・交流機能	その他諸室
約900m ²	約450m ²	約453m ²	約273m ²
合計 約2,076m ²			

施設の配置及び平面計画

配置計画・動線計画

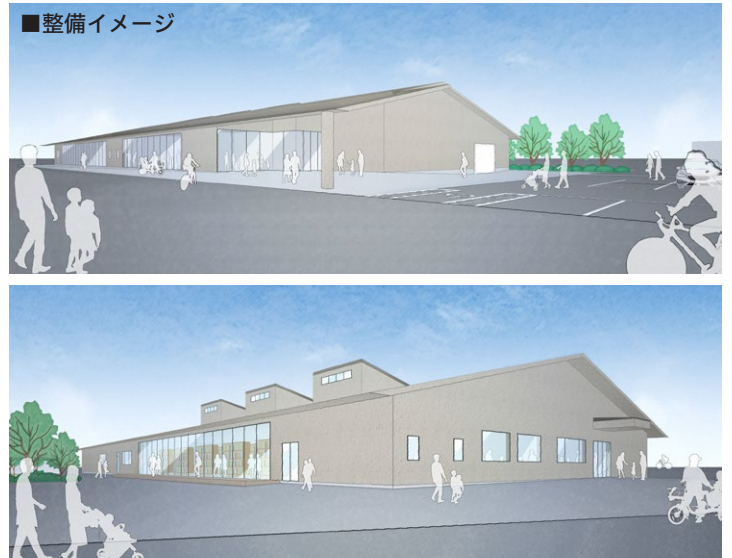
施設配置の考え方

建設予定地における施設配置は、周辺環境に配慮した計画とします。

予定地の南側は国道45号に面し、北側はコミュニティバスの発着所があるため、南北からの施設来訪者の利便性を考慮した配置計画とします。

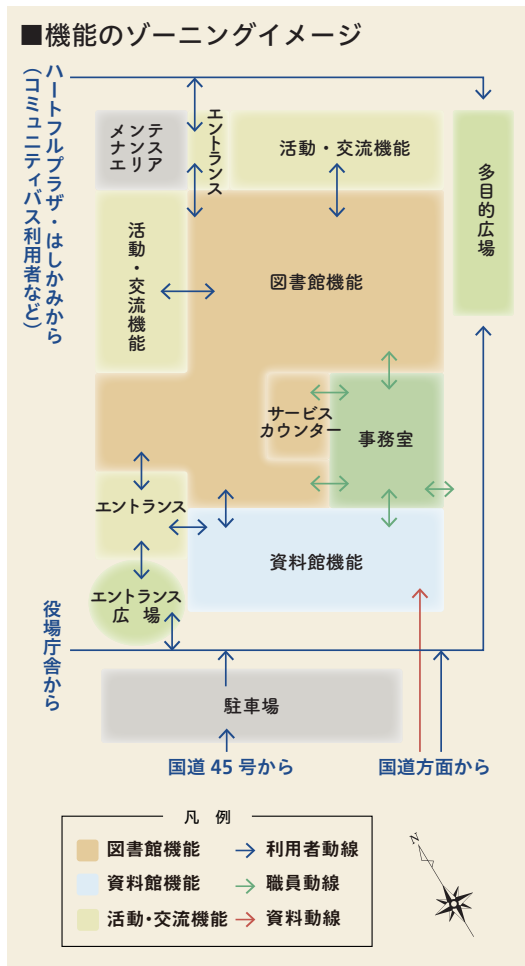
階層について

想定した施設規模である約2,000㎡を敷地面積に対して余裕を持って配置できる点、施設内をオープンプログラとしてすることにより、導入する各機能の効果的な連携を図ることができる点から、「1階平屋建て」を基本として計画します。



各機能のゾーニングについて

図書館機能と活動・交流機能、多目的広場の主な利用者は町民が想定され、自家用車やコミュニティバス等の利用が想定されます。そのため、図書館機能と活動・交流機能については、コミュニティバス発着所からの利便性を考慮して敷地北側へ配置が望まれます。一方、資料館機能は観光客など駐車場利用者のアクセスを考慮し、観光交流スペースとともに、敷地南側への配置を計画します。



民俗資料展示の方向性

展示整備の考え方

施設内の資料館における展示の方向性と展示テーマは次のように定め、整備を進めます。

展示の方向性

- 図書館機能と相互に作用することを目指した展示とします。
- 町が有する豊富な現物資料を最大限に活用します。
- 町の文化財の価値と伝統を余すところなく伝えます。
- 縄文の暮らしを紹介するとともに、出土資料の希少価値を伝えます。
- 町に現存する歴史遺産へ誘導するよう、その魅力を分かりやすく伝えます。
- 歴史ある伝統文化や昔の暮らしを、映像や写真資料を活用しながら紹介します。
- 豊かな自然が持つ魅力を発信し、町の観光振興につなげます。
- 町にゆかりある偉人の功績と、今に遺る作品を紹介します。

展示 テーマ

町の特徴ある文化財を中心に、歴史や風俗、自然や文化芸術に触れることで、階上町に遺る資源の価値を知る。

階上町の特徴が現れた遺物や伝統文化、豊かな自然や芸術作品などに触れてもらうよう、文化財の収集や保存に努め、それぞれに適した手法で公開し、包括的に伝えていきます。それにより町が持っていた地域資源の重要性や貴重性を知り、次世代へつないでいく意識が醸成されることをねらいとします。

概算事業費

新施設建設の概算事業費は、約 22 億円とします。財源については、都市構造再編集中支援事業補助金、起債及び一般財源を予定していますが、次年度以降作成する基本設計において、精査することとなります。

項目	事業費
調査・設計・工事監理費 (解体/建築/設備/展示/外構 基本・実施設計)	約 2.1 億円
建設工事費 (解体/建築/設備/展示/外構/備品等)	約 19.5 億円
土地購入費	約 0.4 億円
合計	約 22.0 億円

※概算事業費は設計作業前の概算額であり、社会情勢の変化等により、今後変更になる可能性があります。

整備スケジュール

